

丈夫な血管 長生きのもと

前回は下肢静脈瘤しゆうみづの原因について話しました。下腿したで血管が浮き出ていても、その原因は、足の付け根の静脈から血が逆流することでした。

逆流はすべて止めなければならぬというわけではありませぬ。そして、足がしびれる、痛いななどの訴えで受診される患者さんの場合、ほとんど静脈瘤以外が原因であることを前置きしたうえで、話を進めます。静脈瘤の中にたまった

下肢静脈瘤 ①

血液が何らかのきっかけで固まると、その場所が赤く腫れ上がり、痛みます。血栓性静脈炎という病気です。

また、血液の逆流がもとで、夕方になると足が

治療法に選択の余地

むくんだり、夜寝ていると足がつる、などの症状は、静脈瘤（正確には、静脈瘤の原因である弁が壊れて血液が逆流していること）が原因の場合があります。

このような場合、足の付け根を二センチ程度切っ

て、逆流している静脈の基部を結紮きゆうさう（外科的処置で血管を縛ること）します。これが原因の治療になります。

太腿の静脈は抜き取ることもありますが、そのままにしておくこともあります。

下腿の拡張した静脈は

切除してもよいですし、薬を注射して固めてしまう硬化療法もあります。ただ、これでは静脈逆流の原因が治療されていないので、必ず再発します。

最近では、数センチの切開だけで逆流している静脈の中に管を入れ、レー

ザーにより静脈を熱で固める方法も、健康保険適用になりました。

下肢静脈瘤は放置しても命にかかわる病気ではありませんが、下腿の皮膚が硬くなったり色素沈着が起きてきたら、治療のタイミングです。

いろいろな治療法がありますので、まずは、かかりつけ医に相談してください。

道先生 尚錦
(にしきみ・なおみち)



名古屋生まれ。東海高校、名古屋大学医学部卒業。大学院終了後、米國留学。桐生厚生総合病院で研修中に血管外科を志望。名古屋第一赤十字病院血管外科部長。